

2022年度 事業報告

【「日本近代文学大事典」増補改訂デジタル版公開】

2020年度より準備を進めていた「日本近代文学大事典」増補改訂デジタル版について、2022年5月10日、株式会社ネットアドバンスが運営する JapanKnowledge Lib より第一回公開が開始された。2022年度は授業目的公衆送信補償金制度共通目的事業の助成を受け、第二回公開に向けての編集にあたり、2023年3月15日、元版増補、新規立項、作家の肖像写真、別名・号情報等を追加した第二回公開が行われた。

【授業目的公衆送信補償金制度 共通目的事業に参加】

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の授業目的公衆送信補償金制度共通目的事業の助成を受け、①「日本近代文学大事典」増補改訂デジタル版の継続的構築、②高校教科書定番教材4作品「羅生門」「山月記」「舞姫」「こころ」の映像番組制作、③教育現場への公開を目指した館蔵の音声・映像資料のデジタル化を行うこととなった。

【資料収集】

所蔵資料総点数 1,324,484点

	図書	雑誌	特別資料	写真	視聴覚資料	寄託
本年度	6,443	5,519	1,782	0	8	7件
累計	507,459	718,825	106,280	5,425	247	73件（寄託累計15,524点）

【閲覧等サービス】 []内は前年度の数

閲覧	資料複写サービス	資料写真サービス	レファレンスサービス
日数195日 [195日] 人数1,536人 [1,171人]	1,171件 26,484枚（うち学割192件 3,977枚） [1,307件 32,548枚（うち学割178件 3,916枚）]	308件 934枚 [347件 1,596枚]	634件 [781件]

成田分館 開館日数 22日 [9日]、展示来観者 7人 [0人]、閲覧者 2人 [0人]

HP特別資料検索サービス 利用登録者 894人 [718人]

【展覧会】

- ① **春季特別展「川端康成没後50年・日本近代文学館開館55周年 川端康成展一人を愛し、人に愛された人」**
2022年4月2日(土)～6月11日(土) (49日間、2,603人)
編集委員：坂上弘、中島国彦
小池昌代氏（作家・詩人）と中島国彦編集委員との記念対談・展示解説を収録し、対談は5月2日、展示解説は5月5日よりオンライン配信開始（映像制作助成：公益財団法人石橋財団）。
- ② **夏季企画展「教科書のなかの文学／教室のそとの文学Ⅳ—夏目漱石「こころ」とその時代」**
2022年6月25日(土)～9月10日(土) (54日間、1,657人)
編集委員：安藤宏、中島国彦
- ③ **秋季特別展「生誕120年 住井すゑ、95年の軌跡—金輪際いつぼんきりの曼珠沙華^{まんじゅさげ}」**
2022年9月17日(土)～11月26日(土) (48日間、1,745人)
編集委員：江種満子、金井景子、中谷いずみ
9月23日「住井すゑを語る会」開催 講師：斎藤美奈子、関真砂子、後藤田和（参加39名）
川端康成記念室＝「川端康成と日本近代文学館」
- ④ **冬季企画展「新収蔵資料展」**
2022年12月3日(土)～2023年3月25日(土) (67日間、1,372人)
編集委員：栗原敦、林淑美

「萩原朔太郎大全2022」企画コーナー併設 (2022年12月3日(土)～2023年2月11日(土))

前橋文学館の呼びかけにより、2022年に没後80年を迎える萩原朔太郎ゆかりの文学館・美術館等が同時期に朔太郎関連展を開催する企画。当館では「特集展示 没後80年萩原朔太郎—『ソライロノハナ』・詩稿・楽譜」と題し、萩原葉子氏寄贈萩原朔太郎コレクション資料を中心に展示。

⑤ 「震災を書く」展

2023年2月21日(土)～3月25日(土) (24日間、712人) ※新収蔵資料展と同時開催 編集委員：山崎一穎

【講座・講演会】

○ **文学館へ行こう！（文学館を知りたい方へ — 利用案内講座） → 2022年度の開催を中止。**

○ **資料は語る → 2021年度5月、6月、9月に延期となった回を前期として開催。**

前期 資料で読む「東京文学誌」（受講者数 4月:28人、5月:25人、6月:18人）

- 1、4月16日(土) 庄司達也：芥川龍之介「雛」の銀座「煉瓦通り」—「紺珠十篇の中」という懐かしいお話から小説へ
- 2、5月21日(土) 中島国彦：夏目漱石—作品に描かれた東京市外
- 3、6月11日(土) 井上隆史：三島由紀夫『鏡子の家』の東京とニューヨーク—その光と影

後期 文学者の海外体験（受講者数 9月:24人、10月:28人、11月:11人）

- 4、9月17日(土) 片山倫太郎：川端康成ノーベル賞授賞式の旅—「美しい日本の私」
- 5、10月15日(土) 須田喜代次：森鷗外の滞独時代—『日本からの手紙』にほの見える〈日本への手紙〉—
- 6、11月19日(土) 和田博文：深尾須磨子のヨーロッパ紀行—「滞欧日記」を読む

○ **声のライブラリー**（公益財団法人石橋財団 助成事業）

2022年の声のライブラリー 2021年度に続きVimeoでの無観客収録配信。

10月20～21日の2日間にわたり、4組8名の朗読・対談を収録。3月31日よりオンデマンド有料配信を開始。

出演者：山崎佳代子×野谷文昭／高橋睦郎×川本直／李琴峰×桜庭一樹／小池昌代×小川公代

2021年の声のライブラリー—世界版（対談英語字幕、Helen O' Horan氏訳）配信開始。

○ **「教室」と「文学」をつなぐ—日本近代文学館を橋渡しとして**

中学高校教員を対象に、教育現場での文学館活用法ミニレクチャーや意見交換会をおこなった。

7月9日(土) 講師：安藤宏・中島国彦 会場参加10名、ZOOM視聴31名

8月6日(土) 講師：中島国彦 ZOOM視聴55名

○ **第57回 夏の文学教室**

「日本近代文学館開館55周年 現代作家が読み解く「文学」のカー—文学館が媒介する過去・現在・未来」

7月29日(金) 読売新聞社後援、小学館協力 有楽町・よみうりホール（受講者 683名）

新型コロナウイルス感染症対策のため、一日のみの日程で開催した。

講演講師：平野啓一郎、島田雅彦、小池昌代

座談会登壇講師：小池昌代、辻原登、ロバートキャンベル 司会：紅野謙介

○ **文学館演習—日本近代文学資料の探索と処理** 8月23日～8月27日（受講者 12大学ほか18名）

講師：安藤宏、伊藤一郎、紅野謙介、須田喜代次、十重田裕一、中島国彦、宮内淳子、宗像和重、山田俊治

和田博文、事務局職員

○ **文学館職員研修講座** 2023年1月25日～27日（受講者 3館3名）

【刊行物】

『明治文学の彩り 口絵・挿絵の世界』8月10日刊行 館編、出口智之責任編集、春陽堂書店発行
紀要「日本近代文学館年誌—資料探索」第18号 2023年3月31日刊行